

国語

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
国語	言語文化	2	1年次・全	必修
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
高等学校 言語文化 （第一学習社）		カラー版 新国語便覧 テスト式国語常識の総演習		1年次必修科目

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
国語を適切に表現し、的確に理解する能力を養成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識や技能を身に付けていく。さらに、それらを関連付けて活用できるようになる。	伝統的な言語文化及び言葉の知識や技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けていく。適切な声量・速さで話すことができるようになる。	予習課題や授業中の作業に丁寧に取り組む。授業中に自ら挙手・発表をしていく。他の人の意見をよく聞き、それに応じた発言ができるようになる。

2 学習計画と観点別評価項目

	学期	学習内容（単元・項目）		月	学習のねらい	評価の観点
	1	日本文学編	古文入門 「児のそら寝」 「なよ竹のかぐや姫」	4	・古文を学習する意義を知るとともに、伝統的な言語文化への興味・関心を広げる。	1 2 3
学 習 の 年 間 計 画	1 学 期	漢文学編	漢文入門 「訓読に親しむ」	5	・登場人物の性格・心理・行動を的確に読み取る。 ・漢文の構造を理解し、漢字・漢語の正しい意味・用法を理解する。	1 2 3
		日本文学編	歌物語 「伊勢物語」	6	・故事成語の意味を理解し、漢文を読むおもしろさを味わう。 ・古語辞典を適切に使い、現代語訳していく道筋を体得する。	1 3
		漢文学編	故事成語 「狐借虎威」 「蛇足」	7	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえて、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉の多くが漢文に由来することを理解する。	1 3
		日本文学編	随筆（一） 「枕草子」	9	・平安文学の代表的作品に触れ、当時の人々の感性・考え方が現代とどう違うのか、同じなのかを読み解いていく。	2 3
	2 学 期	漢文学編	史伝 「先従隗始」 「臥薪嘗胆」	10	・平易な文章の漢文に慣れ、訓読のきまりについて確認し、簡潔な表現を味わう。	1 2
		日本文学編	日記 「土佐日記」	11	・登場人物の考え・主張をまとめ、その論理の巧みさを理解する。 ・わが国初の日記文学を読んで、その特徴を理解し読み味わう。	2 3
		漢文学編	漢詩 「唐詩の世界」	12	・漢詩の表現や技法（押韻や対句）に留意して古代中国の人々の思いを読み取る。	1 3
		日本文学編	随筆（二） 「徒然草」		・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉え、人間、社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。	1 2

令和6年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

3 学 期	漢文学編	思想 「論語」	1	・日本にも大きな影響を与えた『論語』を読み、孔子のものの見方や考え方を理解する。 ・詩や短歌のリズムや表記の特徴を理解し、作品に込められた作者の思いを追究する。 ・短歌特有の修辞について学び、鑑賞方法を身に付ける。 ・和歌に詠まれた思想・感情・情景を読み取る。 ・和歌の修辞技巧や表現上の特色を理解する。	1 2
	日本文学編	近現代の詩歌 「登のうへ」「その子二十」	2		1 3
	日本文学編	古典の詩歌 「万葉集」	3		2 3
学 習 評 価	観点	1. 知識・技能		2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
	規 準	○定期考査等では、事実的な知識の習得を問う問題と知識の概念的な理解を問う問題とのバランスを取りながら評価する。 ○課題や提出物の状況を評価に取り入れる。 ○我が国の言語文化に興味を持ち、それに特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深めているかをはかる。		○定期考査等では、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力が身に付いているかをはかることに注力する。 ○論述やレポート等、多彩な表現活動を評価に取り入れ、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができているかをはかる。	○観点別学習状況の評価を通してはかる。 ○ノートやレポート、提出物等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒の自己評価等の状況も評価に当たって考慮する内容とする。
	手 段	・定期考査 ・小テスト ・提出物		・授業中の活動 ・小テスト	・授業中の活動 ・小テスト ・提出物
	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		単元末、学期末ごとに評価を総括し、年次末に単元末と学期末の評価を行い評価する。		
	学習上の留意点	・小テストの勉強や課題プリントなど、家庭学習をしっかりと授業に臨むこと。 ・ノートなど、提出物は期限を必ず守ること。			